

作成日	2019 年 7 月 3 日
学科・専攻名	心理学科

教育課程・学習成果

1. 教育課程編成・実施の方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。

【現状説明】

心理学科では、教育課程編成・実施の方針に基づき、科学的に人間の行動や心を理解する方法論や、幅広く心理学についての知見を身につけることができるよう、各科目の関係・順次性を明示した体系的な教育課程を編成し実施している。1 年次では、心理学全般にわたる基礎的な科目を学ぶとともに、心理学研究法などの科学的な方法論の学習をスタートさせ、2 年次からは発達心理学、社会心理学、認知心理学などをはじめ幅広い心理学の領域について学べるような授業科目や、心理学研究法や心理学実験など実際にデータを収集し分析する科目が配置されている。3 年次からは心理学演習など、本格的なゼミが始まり、それまでの学習を総合して、指導教員の個別指導を受けつつ、4 年次にかけて卒業研究の完成を目指すという、体系的な編成となっている。また、心理学科の教育目標と、設置されている授業科目との関係については、カリキュラム・マップや履修モデル等を通じて解説している。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

公認心理師に関する社会的需要の拡大に対応するため、2018 年度より公認心理師法に定められた科目を加えたカリキュラムを構成した。

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

2. 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置を講じていますか。

【現状説明】

本学科では、教育目標達成のために、全年次において 1 クラス 30 人以下の少人数演習科目を必修科目として設置している。特に 1 年次の心理学入門演習（1 クラス平均 20 人）では、キャリア教育をはじめ、大学での学びの基礎となる、図書館の活用、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションといったアカデミック・スキルや、批判的思考といった態度の習得を目的とし、共通テキスト「アカデミック・スキル」も活用して、初年次教育の充実を図っている。2 年次以降は心理学文献講読等の科目でも少人数演習形式によるきめ細かな指導をおこなっている。また、2 年次から 3 年次にかけて、実験・実習科目を多数配置し、講義科目の中でもグループワークやディスカッション等のアクティブ・ラーニングを取り入れ、授業への学生の主体的参加を促すよう工夫している。それらの科目においても履修登録者が多数いる科目では、同一科目を複数コマ開講することで適正規模による授業運営に努めている。

履修指導については、必要に応じて個々の学生の GPA に基づき実施しており、今後は「京女ポータル」に搭載された LMS や学修ポートフォリオも活用していく。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

3. 学生の学修成果を把握し、教育課程及びその内容、方法の適切性についての点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに教育の質向上に向けた取り組みを行っていますか。

【現状説明】

学習成果を測定する評価指標として、本学科では累積 GPA、大学院進学率を重視している。本学科の 2019 年 3 月卒業生の数値は、累積 GPA の平均値 3.10、進学率 24.3%であり、概ね教育目標に沿った成果が上がっている。なお、2017 年よりジェネリック・スキル測定テスト、学修ポートフォリオが導入され、これらを用いた学習成果の把握・評価について検討し始めたところである。

教育課程及びその内容、方法の適切性については、学科会議において、授業評価アンケート結果や学科の FD 活動の一環として実施した質問紙調査の分析結果から検討を行っている。授業評価アンケートについては、各教員はアンケート結果に対する「授業評価所見」を公表し、授業改善に活用している。2018 年度は、授業アンケート結果に基づく学科・専攻別の改善報告書を作成する取り組みを始めたが、学科としてより組織的な検証に取り組むことが課題である。また、学科独自の FD 活動の一環として FD 検討会を行い、学生の特質や要望を実証的に捉える目的で学科に在籍する全学生を対象に実施した質問紙調査の解析結果を元に、学生の大学生活に対する満足度を向上させるためにどのような教育を行っていくことが効果的であるかについて検討を行った。その他の取り組みとしては、全学の FD 講演会への参加、公開授業の実施および参加、学外の FD 関連研修・講演会への個別参加等を行っている。また、毎年、次年度の時間割を作成する作業の際に、各科目の受講者数の確認、カリキュラムの妥当性、担当者の選定などを学科会議で検証している。尚、本学科では、学部改組に一年先立つ形で、国家資格である公認心理師受験資格に対応したカリキュラム改革に取り組み、2018 年度入学生から新カリキュラムを導入した。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

ジェネリック・スキル測定テストや学修ポートフォリオ、カリキュラム・マップなどを用いて学修成果を多面的に把握・評価するように努める。

教員・教員組織、FD

1. 教員組織の編成(募集・採用・昇任等)にあたって、職位構成および年齢構成の偏りに配慮した編成をおこなっていますか。また、カリキュラムに基づく教員組織となっていますか。

【現状説明】

本学科の 2019 年度における教員数は 8 名、年齢構成は 60 代が 3 名、50 代が 3 名、40 代が 2 名で平均年齢は 56.5 歳、男女比は男性 5 名/女性 3 名、教授 4 名、准教授 4 名という構成である。教員組織のバランスについて、50～60 歳代の教員比率が 75%と偏りがあるため、今後 5 年間で平準化すべく、後任採用にあたっては 20～40 歳代の助教・講師・准教授の採用を目指す。学科としてのカリキュラム・ポリシーを踏まえ、基礎心理学領域、臨床心理学領域で構成される教育課程・開講科目に対し、実験心理学、認知心理学、社会心理学、教育心理学、発達心理学、発達臨床心理学、臨床心理学、神経心理学等を研究分野とする教員を配置しており、担当科目と各研究分野が整合するものとなっている。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

教員の年齢構成にやや偏りがあるため、今後若い教員の採用を検討する。

2. 学科・専攻独自のFD活動を実施し、教員の資質向上に取り組んでいますか。

【現状説明】

2018年度は学科独自FDとして、本学科独自のアンケートを2016年度、2017年度に引き続き実施した。アンケート結果をもとに本学科の強みと改善が望まれる点について学科会議で検証した。教育活動（授業の分かりやすさ、履修指導、学生の意見のフィードバック等）に対する学生の満足度については、「授業アンケート」や「学生生活実態調査」を基に、学科内FD活動として学科会議で検証している。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

授業公開の実施が現状では少ない。多人数クラスにおけるアクティブ・ラーニング導入に向けたFDを、学科独自で実施する。

内部評価委員会からの評価結果（内部評価結果レポート）

一般的なコメント（総評）
<p>目標が具体的に設定されており、達成のための施策が行われていると評価できます。</p> <p>各評価項目の【課題および改善施策】については、学科会議等において定期的に検証し、次年度に進捗を報告してください。</p>
改善勧告コメント（具体的な改善の指示）
Empty space for improvement advice

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見
Empty space for comments